

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。よろしくお願いいたします。

1回目の質問をさせていただきます。

1、大火後の防火対策の取り組みについて。

大火後、国・県、そして当市で、県外を含めた近隣市町村との連携等、新たな防火対策がなされていると思います。そこで現在まで、どのような対策を計画・実施してきているのかをお尋ねいたします。

(1) 関係法令等の改正の動きはどうか。

(2) 県外を含めた近隣市町村との連携はどうか。

(3) 当市での取り組みについては、

① 消防職員・団員の増員は、また運用見直しはどうか。

② 消防設備・防具等の強化はどうか。

③ 消防団の初期出動はどうか。

④ 防火意識の向上等の対策についてはどうか。

2、住宅区域における空き地の管理について。

我が家周辺、住宅地域内の空き地では雑草が2メートルにも伸び、苦情があります。市内で雑草の苦情等がどれくらいあるのか。あるとしたらその状況をお伺いします。

また、糸魚川市空家等対策計画を読みますと、空き家が主で空き家に付随した立木や雑草の管理と読め、建物のない空き地の管理は出てきません。住宅区域内の空き地の管理についても、この計画に明記し、盛り込む必要を感じますがいかがでしょうか。

3、蒸気機関車・黒姫号の活用について。

横町にあった東洋活性白土株式会社で使用されていた機関車・黒姫号が、フォッサマグナミュージアムの入り口庭に展示されています。

この黒姫号は産業用としては国産最後の蒸気機関車で、鉄道ファンには人気と伺っています。

新幹線の開通で、アルプス口にジオパルができ、鉄道ファンには人気の施設と思います。また、ジオパルは糸魚川の観光に一役買っているとも思います。

そこで、現在のミュージアムからジオパルに移設したほうが、より観光に寄与するのではないかとの声もあります。ジオパルへの移設の検討をしていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、小規模飲食店への消火器設置の義務化について、国では消防法令の改正が検討されており、当市では国に先駆け、火災予防条例の改正を今定例会に提出いたして

+

おります。

2点目につきましては、以前より、上越消防・富山県新川消防・長野県北アルプス消防と相互応援協定を結んでおり、今回の大火を受け、新潟・富山両県と連携し、富山県東部消防を加えた4消防本部で、応援体制の強化に向け協議いたしております。

3点目の1つ目につきましては、当市の実情に即した適切な体制及び運用となるよう検討しております。

2つ目につきましては、大火に対応した消防車両・資機材の整備や、消防水利の強化に取り組んでおります。

また、個人装備といたしましては、防火服などの安全装備品の増強を図っております。

3つ目につきましては、大火後に第一出動の増員など出動計画の見直しを行い、初動態勢を強化いたしております。

4つ目につきましては、一般家庭の防火診断、地区や学校、事務所の避難訓練等の防火指導を実施し、防火意識の向上に努めております。

2番目につきましては、この計画は空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき策定したものであります。空き地は対象となっておりません。

空き地につきましては、環境美化推進条例に基づき、指導・助言等を行っており、雑草に対する苦情等は年間10件程度で、自治会の代表者等と現地を確認しながら対応いたしております。

3番目につきましては、ジオパルには開業以来、多くのお客さんに来ていただいております。中でもジオラマやキハ52につきましては、鉄道ファンの方々から好評をいただいているところであります。今後、黒姫号につきましても、ジオパルなどに移転展示が可能かどうか検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

1番の（2）近隣の連携ですけど、もう一度お聞かせください。新潟県、これ全県というふうにご考えてよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

新潟県は、新潟県全土の19消防本部、これは新潟県の広域の消防相互応援協定というものを、別で持っております。

今、市長答弁申し上げたのは、近隣消防本部との協定ということで、上越、それから新川消防、長野の北アルプス消防とは、以前から協定を結んでいると。加えて今回、富山県の東部消防と、今、

協議を進めているという内容でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

富山県で言うと、今、じゃ、新川と、この東部ということだけになるわけですね。もう一度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

今、話を進めているのは、議員おっしゃるとおりであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。

今回の大火では、本当に新潟市からも来ていただきました。新潟には170キロぐらいあるんですかね。でも富山だと70キロ弱。そういう面では、富山県の富山市あたりも、やはりかなりの県庁所在地ですので、そういう消防の組織っていうのは大きいでしょうし設備もいいですから、できればそこまで広げていただければありがたいなというふうに思います。

次に、消防団の初期出動、これについて、詳しく内容をお聞かせいただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

初期出動ということで、火災のことでよろしいと思っております。

今回の火災を例にとりますと、今回の火災では、糸魚川分団が8個部が出動するという計画になっておりました。

この4月1日からは、やはり今回の大火を受けて、15部を第一出動するというような形で、今までよりもより多くの部が出動する。第二出動、第三出動についても同じような考え方で、より多くの部が出動するという体制に変更をしたものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。

ぜひとも、やはり無駄になってもいいというふうに思いますので、本当に初期消火が大事だと思います。そういう面では、やはり広域から来ていただいて、いち早く消火に当たるということが大事だと思いますので、ぜひとも、消防団も大変でしょうけど、頑張っただけであればというふうに思います。

次に、4番目の防火意識の向上で、子供消防団ということも、前回の、私、提案させていただいたんですけど、その点、どんな感じで進んでいますでしょうか。お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

復興まちづくり計画の中の、重点プロジェクトの6番のところにあるものでございます。そのような中で、今、関係課と協議を進めているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

なかなか消防団、前回の教育委員会でも、やはり公民館単位だとかって、そういう発言もあったかと思います。かなり難しい部分があるんだと思うんですね。

先日、私、糸魚川中学校の校長と、いろんなお話をさせていただきました。その中で、消防署のほうから学校側に要請があるんなら、協力したいよという話を伺いました。

なかなか全域でやるっていうことは難しいんでしょうけど、例えば私は、防火隊員のパンフレットなんかを中学生に配らせる。家庭内でも結構だと思うんですね。そういうことも1つの、中学生を巻き込んだ活動になるのではないかと。

では、どうしてそういうことを言うかということ、実は広報でいろんなことも流れてるんですけど、正直な話、広報は中学生が読んでいますでしょうか。小学生が読んでいますでしょうか。私も、議員になる前は、余り広報を隅から隅まで読まないですね、さらって流す程度。

そんな中、やっぱりこの糸魚川で大火があって、その大火に対してやっぱり消防、防火ですね、火をおこさない、火を出さないということを、中学生がパンフレットを持って、うちへ持っていくことによって、中学生なり小学生が、やっぱりそういうのを目にすることで意識が高まるんじゃないかというふうに考えます。

1つの、今、糸魚川中学の話しましたが、そこらあたりから始めてみて、全域、いわゆる小学校を含めたり、さては幼稚園を含めたり高校を含めたりというような形で広げていけば、かなりの、いわゆる子供も含めた防火意識につながるのではないかとというふうに思います。その件について、ご意見をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

市内の学校では、今、防災教育も取り組んでおります。自然災害から自分の命を守るための能力を育成するというところで、危機回避能力の育成っていうことを目指して、防災教育に取り組んでいるところですが、議員おっしゃられるように、主体的に市の避難訓練ですとかというものに参加したり、市民としての防火意識を高めたりということは、非常に効果のあることかと思えます。また、消防本部ともよく相談をして、その辺についても検討したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 渡辺孝志君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（渡辺孝志君）

お答えします。

前回は、議員からも公民館単位でという話を伺っておりましたが、公民館の連絡協議会とか、この話題も出しておりますので、引き続き呼びかけはしたいというふうに思っております。

それとあと10月に、私どものキッズフェスタという子供のイベントがございまして、その中で職業体験っていう中で、消防の体験というのもありますので、そういった参加、キャリア教育をやる中で、その防火についても学んでいただけるような啓発とかそういった活動を、その中で盛り込んでいきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、先日、相馬御風の館へ行ってきました。そこで、あと思ったんですけど、あその台所に、いわゆる水を手向く水がめっていうか、それがああるんですね。どれぐらいかな、60リッターか70リッターぐらい入りますかね。

私、子供のころはガスも通っていませんでした。やはり、私が子供のときは井戸で水をくんで、家庭に水をためていた、そういう時代だったと思うんですね。それが、水道が入り、ガスが入ったんですけど、その水槽を見て、あっというように思ったんですね。逆に言うと、火事のとくに一気に水を、60、70リッターの水を、いわゆるしゃくで投げることができるんですね。そういう効果はかなりあるんじゃないかなと、そういうふうに思います。

私も、セメントで火を扱ってましたんで、火というのは燃えるものがあること、酸素があること、温度があることだと思うんですね。水というのは、やはり温度を下げる効果だと思うんですね。火事のとくに布団をかけると言います。あれは、酸素を遮断することだと思うんですね。酸素を遮断しても、逆に布団をもう一度あけるとばっと、中の温度が変わってませんので、また燃え出すんですね。でも、布団をかけて、その上に水をかけることによって、中の温度が下がって火事を防げると。そういう面では一気に、このかなりの量の水が要ると。そういう面では、今の便利になって水道をあけるけど、さて水道だけで、くんでこれかけたんでは、かなりもう時間がかかっちゃうと。

そういう面では、家庭の中、台所あたりが主だと思うんですけど、そこに、いわゆる大きな水がないんですよ。

それで考えたんですけど、例えば蛇口の横に、多分家庭、我が家にもありますけど、玄関に花の水をくれるためのそういうのがありますね。ああいうふうなカップか何かつけておいて、もしそういうふうなホースがあったら、すぐあけることによって、かなりのシャワー的なものが出る。そういうような防火体制もあるんじゃないかというふうに考えるんですけど、消防長、ご意見いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

水がめの話もございました、前段。

やはり、水をためておくということは大事なことだと捉えております。以前はよく、浴槽に水はためておいてくださいねというような広報もいたしました。浴槽ですと、一般家庭ですと約200リットルぐらいの水がたまります。それをご家庭のバケツでかけるということは、消火ということでは素早い消火ができるのかなというふうに思います。

加えて今ほど、玄関先の蛇口などにホースをつけておいてはどうかということで、今回の被災地においても、そういうような形で外壁にかけてくださったということも、見聞きをいたしておるところでございますし、結構、庭をお持ちの方とかいろいろな方で、そういうものをつけていらっしゃる方、いらっしゃいます。そういうようなことは、非常に効果的なのかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

実は、水をかけていい場合と、消火器にも電気火災であったり油火災のときはどうだ、粉末だとか液体、今、ほとんど粉末になったんですかね、そんな感じがあると思うんですけど、例えば台所でてんぷら油によるあれで、水をかけたらかなり危ないことになるんだと思うんですね。だから、そういう教育も必要なんだと思うんですけど、やはりかなりの水をかけられるような設備を家庭に持つというのも、1つの考え方ではないかというふうに思います。

また昔の話になるんですけど、私のおふくろは、外に出るときは必ずガスのもと栓を閉めて出かけていたのを思います。そう言いながら、私は今、家内といるんですけど、さて出るときにガスのもと栓をとめて出る習慣は全くありません。同じように、私の家内のいわゆる実家では、コンセントまで抜いてる習慣ですね。そういう部分が、みんな余りにも便利になって、なくなってきたのかな。そこらあたりも、1つの考え方で、いわゆる防火という中で、広報あたりでそういう習慣をつけるようなことも、宣伝していただければというふうに思います。その件についてどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

今ほど、議員おっしゃったことは非常に重要なことだと思います。この辺につきましても、やはり市民の皆さんに周知をするということが大事だというふうに思いますし、特に、ガス栓、コンセントというふうにお話がありました。それぞれの事業者等とも連携をした中で、市民周知を図っていければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

火災予防の日制定ってというのが、平成17年3月19日に告示という、第1号ということで19日になってます。その経緯について、ちょっとお聞かせいただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

火災予防の日は、糸魚川市が合併したことによって、平成17年という形に、今、なっておりますけれども、もとをたどりますと、昭和58年4月に火災予防の日というものを制定しております。そうしますと、もう三十何年でしょうか、たっております。

そういう中で、いろいろな広報等も必要ですねというようなことも含めて、消防団・消防本部が協力をして、広報・警戒をするということから始まったというふうに、詳しいところは、私、今ちょっと思い出しませんけれども、そのような形で進めさせていただいた、始めさせていただいたというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

12月22日、大火になりました。その件について、ことしの12月22日、何か記念日じゃないですけど防火の、やはりそういうふうな行事なり、それを計画していますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

1年後の12月22日に、1年事業ということで、今、計画をしておりますし、関係する予算は、今回の9月補正で補正をお願いさせてもらってるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

よろしく願いいたします。

そこで、先ほどの火災予防の日の制定なんですけど、これを機会に19日から22日に変更したらどうかというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

先ほども申し上げたとおり、三十三、四年たった、比較的長い期間定めてきたというところもございませう。ただいまの件につきましては、議員からのご提言という形で、承らせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

よろしく願いいたします。

先ほど、いわゆる消防職員だとか団員の増員について、それなりにというお話があったと思うんですけど、私も、これから市の人口が減り、収入が減ってくる中で、やはり増員っていうのは、なかなか難しいですし、逆にそれを増員するとなったら、どこかをやはり削らないといけないんだと思うんですね。だから、それなりきのことを考えていかないと、なかなか難しいのかな。やはりそれよりも、防火、いわゆる火を出さないことを重視することによって、経済的にもかなりよくなるんじゃないかというふうに思いますので、そんな感じで進めていただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

次に2番、住宅区域における空き地の管理についてお伺いいたします。

私、今、須沢の宅地造成されたところに住んでおります。その経緯について、ちょっとお伺いいたします。須沢の大坪ってとこなんですけど、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川青海事務所長。〔青海事務所長 井川賢一君登壇〕

○青海事務所長（井川賢一君）

お答えいたします。

土地区画整理組合で造成されたものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）



もう45年ほど前になるかと思うんですけど、須沢のそれまで田んぼでありましたところ、青海通船ができて、それといわゆるJRの間、そこを全部宅地造成されたと思ってます。そのとき、私も青海町で抽せんしたんですけど、残念ながら外れて、後買いで今のところに住みました。

そのとき、土地を買ったときの条件といたしまして、道路側に我が家の道路の本当にそこに土管が通ってます。農業用水用です。それと裏側、そこに農業用水が通ってます。これは、住宅地でありながら、まだ売れないなり、農地といわゆる共有という形であります。いわゆる農業をしなくなったらそこをという条件でした。今も、現実には共存だと思うんですね。その一角で、やはりそんな造成地の中で、やはり雑草のままの、いわゆる農地をしない空き地が草でぼうぼうになってます。

私の考えで言いますと、やはりそうやって住宅、いわゆる造成された土地が、住宅、住民となった方と農地が共存して、お互いに理解をしてる。農地の方も、いわゆるそういうふうな利益を得てきたんだと思うんですね。それをしなくなったから、もう草でぼうぼうだっていうのは、やはりちょっと無責任かなっていうふうに考えます。とは言いながら、世の中でごみ屋敷の問題で、それも行政がなかなかできないのも理解しております。

そういう観点と、もう1つ、井川さんあたりに本当に何度か、2度ほどお願いいたしました。そういう面では、市の方がよく動いてくれるんですけど、それによって逆に言うと、市の作業が多いと。そういうことを考えると、やはり空き地のいわゆる管理方法を、これから考えていかないとというふうに、空き家も同じなんでしょうけど、その考え方からいって、私なんかは管理人、市内に必ず管理人を置くと。当然、土地の所有者であればいいですけど、土地の所有者が糸魚川市内にいない場合には、やはり市内に誰か管理人を必ず置くと。それを、いわゆる登録しておいて、逆に何かそういうことがあったときには、市のほうからそちらに連絡すると。やはり、そんなことも考えていかなきゃいけないんじゃないかな。そうすることによって、市の職員のいわゆる仕事量がかなり減るんじゃないかというふうに考えるんですけど、そんなことも考えていただければ。市長、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

議員おっしゃるように、空き家もそうなんですけども、空き地についても管理が不十分で、近隣の皆さんにご迷惑をかけてる土地というのは、市内各所にございますし、市のほうにも年間、先ほど市長答弁させていただきましたように、雑草に関しては10件程度、苦情が寄せられているという状況でございます。空き家もそうなんですけども、やはり個人の財産を、なかなか市のほうで管理をするというのは難しいというふうには認識しております。

ただ、今、議員ご提言のように、空き家の場合は空家特措法によって、いろいろな税情報を使って所有者を特定することができるようになりましたが、空き地に関しては、その部分がまだまだできない部分もございますので、今、ご提言のようなことも、今後、研究しながら、やっている先進地もございますので、ちょっと研究しながら、どういう対応できるか検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

先ほど、笠原議員の、いわゆる保育料の滞納の件ですね、納めないということなんですけど、それもやっぱり責任感なり規範意識がないと。そういう方が、やはりこれだけの、必ず世の中にはいるんだと思うんですね。これも、今の空き地の件も、やはりそういう部分だろうと思うんです。その部分をどうしていくか、やはり知恵を出して、議会も含めて知恵を出して、住みよい町にしていくなことも大事なことはないかと思えます。どうぞ、頑張っていて、我々もいろんな意見を出したいと思えますので、そういう形で向かっていっていただければというふうに思えます。

3番目、蒸気機関車黒姫号の活用について、フォッサマグナミュージアムの庭に展示した経緯について、お伺いしたいんですけど、よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

最初は東洋活性白土の工場で使われていたものが、使われなくなった後は、糸魚川小学校の正門脇に展示をされておりました。その後、2007年になりますけれども、江戸東京博物館で開催されました博覧会で展示するために、東京に運搬されております。その後、糸魚川小学校の改築の関係で、同じ場所には展示できなくなったということから、フォッサマグナミュージアムのほうが、国産最後の鉦工業に携わった文化財という位置づけもありまして、フォッサマグナミュージアムに展示するのが適当であるということから、ミュージアムのほうに設置をされたというふうに認識をしておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。

当時としては、やっぱりフォッサマグナミュージアムが最適であったというふうに、私も考えます。

とは言いながら、新幹線が開通して、あのアルプス口にキハのいわゆるディーゼルですか、あれなんかも展示することになって、あそこが鉄道だとかいわゆるそういうもんにかかわる、かなりのやっぱり観光客を集める施設になっている。そういうことを考えると、やはり今のフォッサマグナミュージアムよりも、そちらに移設して、観光客の目玉になることのほうが、はるかに利益をもたらすのではないかというふうに考えますけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

黒姫号に関しましては、小学校に行く前は、谷村美術館の横にあった時代もございます。

そういう中で、一番いいとこというような形で持っていくんですが、やはり塩害だとかもあって、紆余曲折しながら、今の状況になっております。

そういう中で、今、議員ご指摘のように、有効活用ということになれば、せっかくの、我々黒姫号を持っておりますし、そのファンが、結構、全国におるというのも承知しておるわけでございますので、今、ご指摘のようになるべく近くにいろんなものがあつたほうが、この鉄道ファンの皆様には喜んでいただけるのではないかなと捉えておるわけでございますので、その辺を検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。

今、フォッサマグナミュージアムにある機関車については、屋根がついてるんですね。でも、周りが全部オープンで、やはり見るとさびが来てます。それを含めて、ぜひとも有効活用していただければというふうに思います。

以上で、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野恭行議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

清政クラブの東野でございます。よろしく申し上げます。

ただいま、質問にございました蒸気機関車の黒姫号の活用について、関連質問させていただきたいと思っております。

黒姫号のメンテナンスと活用について、世界でも、実用のSLとしては大変珍しいものとされる黒姫号、国産最後の蒸気機関車と聞き及びます。平成19年の第3回糸魚川市議会定例会の会議録では、当時の展示方法と活用の仕方が議事録として残っており、現在、フォッサマグナミュージアムに展示されておりますが、現物を見ると、かなりさびなどの老朽が目立ってきているように感じます。定期的にメンテナンスのほうを行っているとは思いますが、現在の管理体制とフォッサマグナミュージアムに展示したときの、ミュージアムと黒姫号の関連性をどのようにお考えか、質問させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

先ほど、ご答弁させていただいたとおり、地域の地下資源に関係した資料ということで、最もフォッサマグナミュージアムが地域の大地の成り立ちですとか、糸魚川市地域の岩石類の多さ、豊富な地下資源などとも関係した資料ということから、フォッサマグナミュージアムに設置をされているというふうに認識をしておりますので、当時としては適切な判断ではなかったかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野恭行議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

よくわかりました。

それで、メンテナンスのほうは定期的に行っていたらと思うんですが、どのような、今、メンテナンスを施されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

先ほど申し上げた、江戸東京博物館での展示の際にリニューアルをしております、その当時のリニューアルのままミュージアムのほうに設置をして、以降につきましては屋根つきで保存しております、大分、おっしゃるとおり傷んではきてはおるんですけども、かえってミュージアムに設置されて以来は、大々的なリニューアルといえますか、改修工事については実施をしていないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野恭行議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。

黒姫号は、糸魚川小学校に展示されていたころから、市民の方々によりメンテナンスされ大切に保存されており、糸魚川市にとっても大切な観光資源であると考えますし、有効に活用されるべきだと考えます。

平成27年2月にジオパルがオープンしましたが、年々、来場客もふえておりますし、長年愛された黒姫号にとっても関連性の深い、注目の観光施設であると考えます。移転となると、再度、費用のほうがかかることから、慎重な審議が必要であると考えますが、これらを踏まえ、黒姫号をジオパルに有効に保存・活用していただきたいと要望させていただき、関連質問を終わりたいと思

ます。

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員の関連質問が終わりました。

ほかに、関連質問ありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

50分まで、暫時休憩いたします。

〈午後1時40分 休憩〉

〈午後1時50分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

保坂議員。〔10番 保坂 悟君登壇〕

○10番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、権現荘経営の問題点について。

(1) 設置目的のための赤字想定額についてはどうか。

(2) 支配人の民間登用の提案者と当初の目的についてはどうか。

(3) 支配人の民間登用と公会計の整合性について。

① 支配人の裁量権の支出をどのように見ているか。

② 売り上げを伸ばすための費用をどのように見ているか。

③ 平成27年度の2,000万円の黒字目標の算出内容と結果はどうか。

④ 平成28年度の1,800万円の黒字目標の算出内容と結果はどうか。

(4) 支配人の裁量権のコスト管理について。

① 飲食サービスによるリピーターづくりの成果の分析はどうか。

② 支配人が宿泊した客室の費用と通勤費の扱いはどうか。

③ 支配人が個別に購入した品目の扱いと、警察への相談の経過はどうか。

④ 糖質ゼロのお酒の売り上げの扱いはどうか。

(5) 記録や伝票を残さない手法の責任者についてはどうか。

(6) 権現荘の経営問題の市民説明の方法についてはどうか。